

- 1 趣 旨 小学校・中学校の若年教員等が、集団づくりに役立つレクリエーションや自然体験活動等の指導に関する基本的な知識や技能の習得を通じて、体験活動の教育的効果に対する理解を深めるとともに、学級経営に係る資質・能力の向上に資する。加えて、受講者同士の連帯感の高揚を図る。
- 2 主 催 福岡県教育委員会、国立夜須高原青少年自然の家
- 3 主 管 国立夜須高原青少年自然の家
- 4 期 間 ①令和8年7月29日(水)～30日(木)
②令和8年8月3日(月)～4日(火)
③令和8年9月2日(水)～3日(木)
- 5 会 場 国立夜須高原青少年自然の家 〒838-0202 福岡県朝倉郡筑前町三箇山1103
- 6 対 象 指定都市を除く市町村(学校組合)立小・中・義務教育学校の教諭(教職経験7年以内)、常勤講師及び助教諭、または受講を希望する者
- 7 参加者 ①2名 ②1名 ③4名
- 8 日 程 1日目
講 義 宿泊研修の企画立案と野外活動の安全管理
演習① 良好な人間関係づくりをめざすアクティビティ展開(オリエンテーリング)
演習② 良好な人間関係づくりをめざすアクティビティ展開(火熾し、焼き板クラフト)
2日目
演習③ 良好な人間関係づくりをめざすアクティビティ展開(薪割り、野外炊飯)

9 活動の実際



【講義】



【オリエンテーリング】



【火熾し①】



【火熾し②】



【焼き板クラフト①】



【焼き板クラフト②】



【薪割り①】



【薪割り②】



【野外炊飯①】



【野外炊飯②】



【野外炊飯③】



【まとめ・ふりかえり】

10 感想

- これまで感覚的にやっていたことや深く考えずにしていたことを理論的に説明したり考えたりすることができて学ぶことがたくさんあった。
- 「しんどかったけど楽しかった」の気持ちを子どもたちにもたくさん経験させたい。
- 引率の際に、子どもたちのどんな姿を目指したいのか、どのくらいのハードルを設定するのかなどを明確にしておくことが大切だと感じた。
- 活動後にふりかえりをするすることで、次の活動で自分たちの反省を生かして行動できることを学んだ。
- 普段は先回りしてトラブルを起こさないようにしがちだが、ほどよいハードルを作ることの大切さを改めて感じた。子どもとも保護者ともそれを乗り越えた時のことをしっかりと事前に共有して企画していきたいと思った。
- 来てみるまでは想像がつかず緊張したが、アットホームな雰囲気でもとても楽しい2日間になった。

11 成果

- 事業全体の満足度はすべて最上位評価だった。活動ごとにふりかえりを行い、その活動が持つ特質や安全上の留意点とその対策を考えたり、実際の体験者としての感想等を共有したりしたことで、学びがより深まっていたことがアンケートへの記載から分かった。
- アンケートにおいて、「子どもたちや職場に還元したい」「自分が体験して得た学びを子どもたちにもさせたい」などの今後の引率を見据えた意見が多数寄せられ、自然体験活動等の指導に関する知識や技能の習得だけでなく、体験活動の教育的効果に対する理解を深めることができた。

12 課題

- 参加者が少ないことで、議論したり協働したりしながら進めたいプログラムの効果が薄まってしまった。参加者の選択肢を増やそうと複数の日程で企画したことや本研修会の魅力を広報できていないことが課題であると考えた。次年度は日程を1つにするとともに、全国教職員研修プラットフォーム「Plant」以外にチラシを用いた広報を行いたい。
- 「集団づくりに役立つレクリエーション」の内容にも期待して申し込んだ参加があった。この内容を前述のように参加者が少ない中で実施することは困難だったが、ニーズに応えうる研修会にしていきたい。